

# ヨット体験学習

～ヨットに乗って水上へ～



株式会社リビエラリゾート

## はじめに

みな  
皆さんは海の上から陸上を見たことがありますか？

ふだん  
普段私たちが生活している三浦の地を、自分の操船するヨ

ットに乗って海の上から観察し、みどり豊かな小網代の森

とすばらしい海に囲まれた三浦の地を再発見しましょう。

※操船 : 船を操ること



## 風と天気

風はヨットにとっては、自動車のガソリンにあたります。そして強すぎても風がなくても困ります。風を利用して走るのがヨットのですから、乗る前に今はどんな風が吹くか予測することが大切です。

風をあらわすのは、その方向と力です。方向は風向といい風の吹いてくる方向を方位であらわします。力は風速と風力であらわします。

風は気圧の高いところ(高気圧)から低いところ(低気圧)に流れ込むことでうまれます。また、沿岸部(たとえば、小網代湾)では晴天で暖かい日には昼間海から陸風が吹き(海風)、夜間陸から海へ風が吹き(陸風)ます。

潮の流れもヨットには大切です。海面は月の引力で1日2回の潮の高低がおきます(満潮と干潮)。潮流はこの潮汐による海水の動きです。潮流は大潮(満月・新月直後)のとき強く、小潮(弦月)のときに弱くなります。

かんてんぼうき  
●観点望気

雲は天気ひょうじょうの表情と言われます。その雲の状態、気温の上下、  
音の聞こえ方、ものの見え具合、海じょうたいの状態などから天気かんてんぼうきの動き  
を予測よそくすることを観天望気と言います。

たとえば

- 夕焼けは晴れ
- 朝焼けは雨
- 日かさ、月かさは雨
- 魚が高くはねると雨
- 飯粒が茶碗につくとはれ、きれいにとれると雨
- 冬の朝、富士山がはっきり見えると強い風が吹く
- 波状雲はじょうぐもは雨など

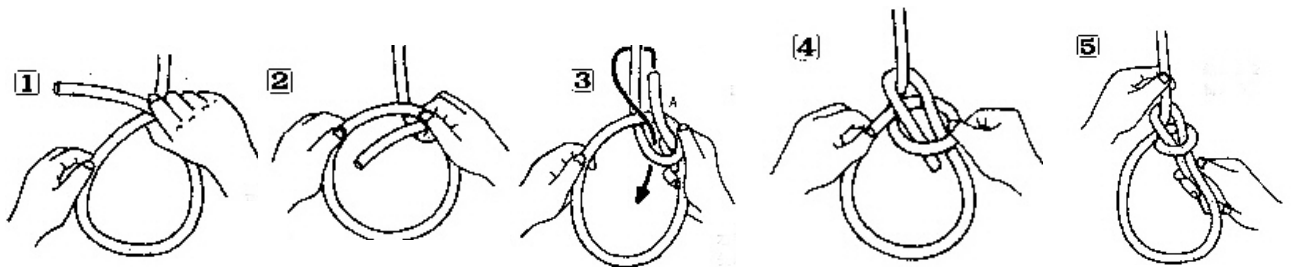


波状雲

# ロープワーク

ロープはヨットにとって欠くことのできないものです。ヨットを艀装したり係留するときにはロープのいろいろな使い方、結び方が利用されています。

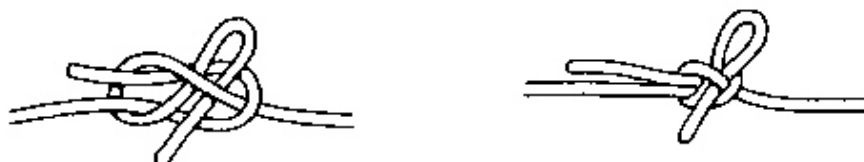
## ●ボウラインノット(もやい結び)



## ●エイトノット (8の字結び)



## ●シートバンド (ひとえ継ぎ)



●クリートヒッチ



●クラブヒッチ (巻き<sup>むす</sup>結び)





## ハンザディングーの説明

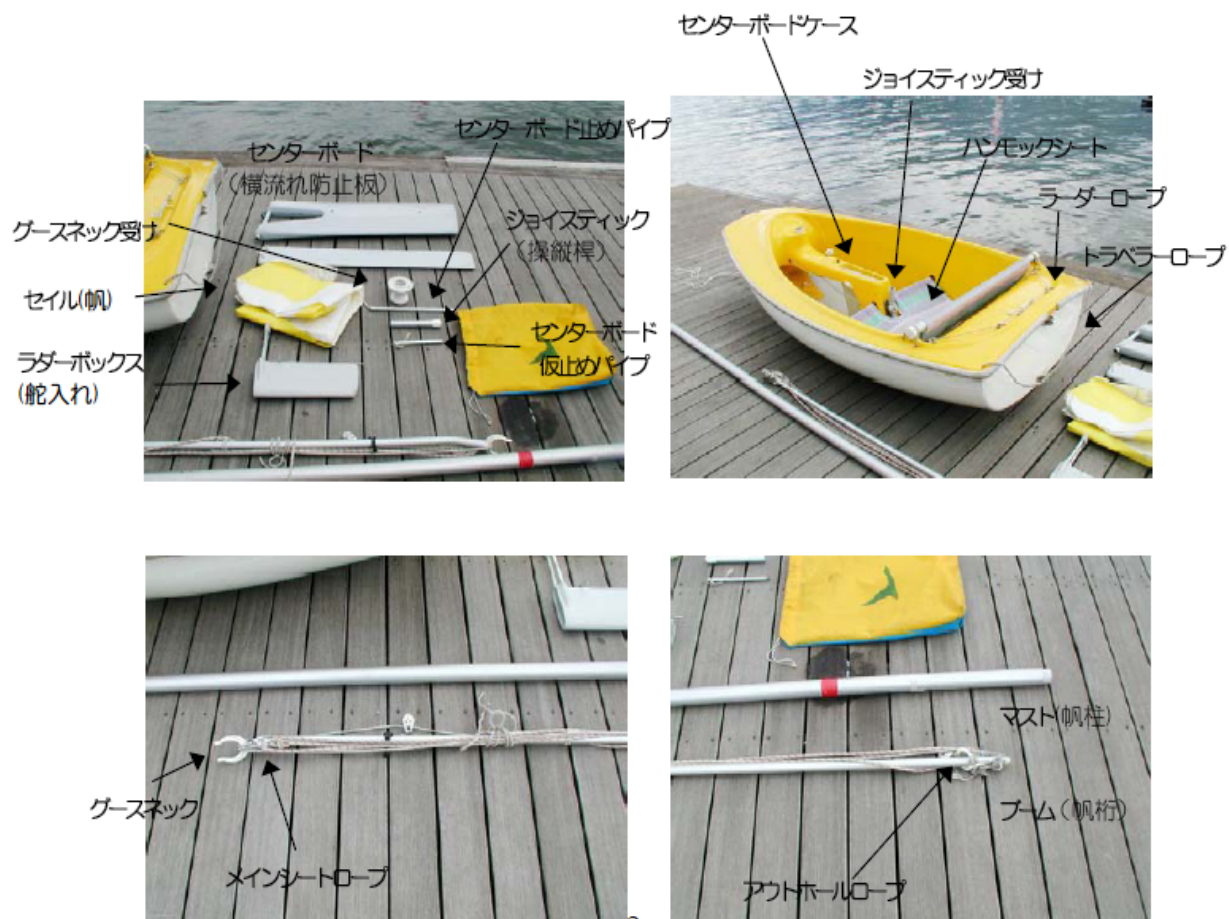
ヨットは海(水上)で乗るものです。ですから、乗る前の準備が  
とてもたいせつです。セットアップが正しく出来ればその日のセ  
ーリングの70%は終わったとも言われるほど、乗る前の準備が  
とても重要です。

小さくてシンプルな艀装(セットアップ)のハンザディングーは、  
基本さえおさえれば準備は万全です。

※艀装 : フナヨソオイ 出船の用意を整えて岸に向かうこと  
: 身なりを整える したく、準備、用意、整備

### ①ハンザディングーの艀装品名称





## ②ハンザディンギーのロープ類名称





### ③ハンザディンギーの各部名称



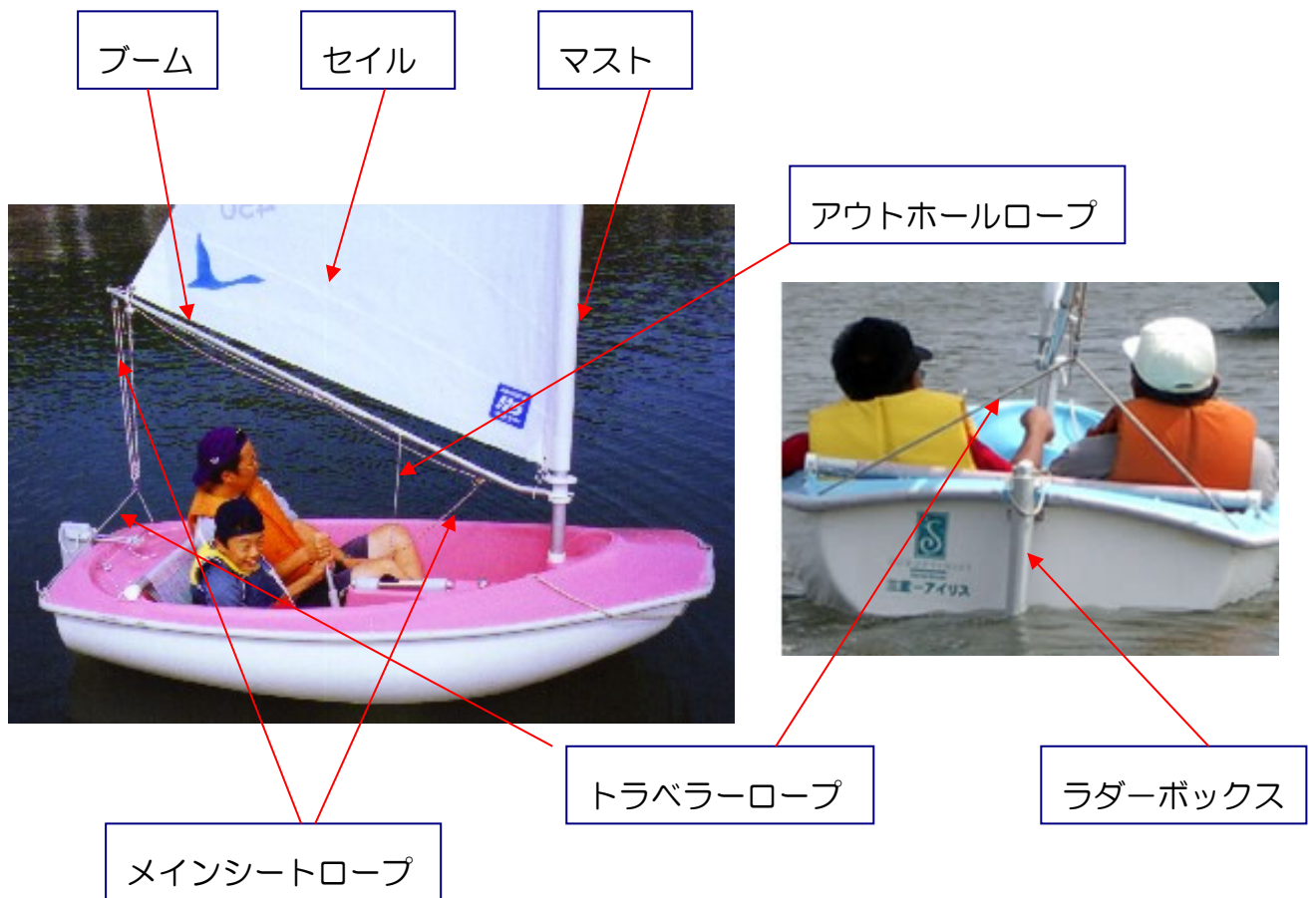
センターボード



ジョイスティック(舵)



センターボードケース



## ヨットの操作と動き

それではヨットに乗ってみましょう。前にも出てきましたがヨットは、海(水上)で乗るものですから、海(水上)ではバランスを崩くずしやすくとても不安定です。バランスを崩くずすとひっくり返りやすふあんていのでヨットに乗るときは、身体を低くするように心掛こころがけましょう。  
ふつう、ヨットでは風上側(風が吹いてくる側)に座りますがハンザディンギーでは写真のように前を見て座ります。



ヨットに乗ったら片手に**メインシートロープ**を持ち、もう一方の手は**ジョイスティック**を持ちます。これが基本姿勢です。



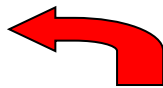
## 行きたい方向にジョイスティックを倒します

<sup>かじ</sup> 舵(ジョイスティック)を軽く<sup>にぎ</sup>握りメインシートロープを引きこんでみましょう。そうするとヨットは走り出します。

ヨットが走っているときに、<sup>かじ</sup> 舵(ジョイスティック)を行きたい方向に倒せばヨットはその方向に向かいます。



ポートサイドへ



スターボードサイドへ



<sup>かじ</sup> 舵(ジョイスティック)を行きたい方向に倒しましょう。

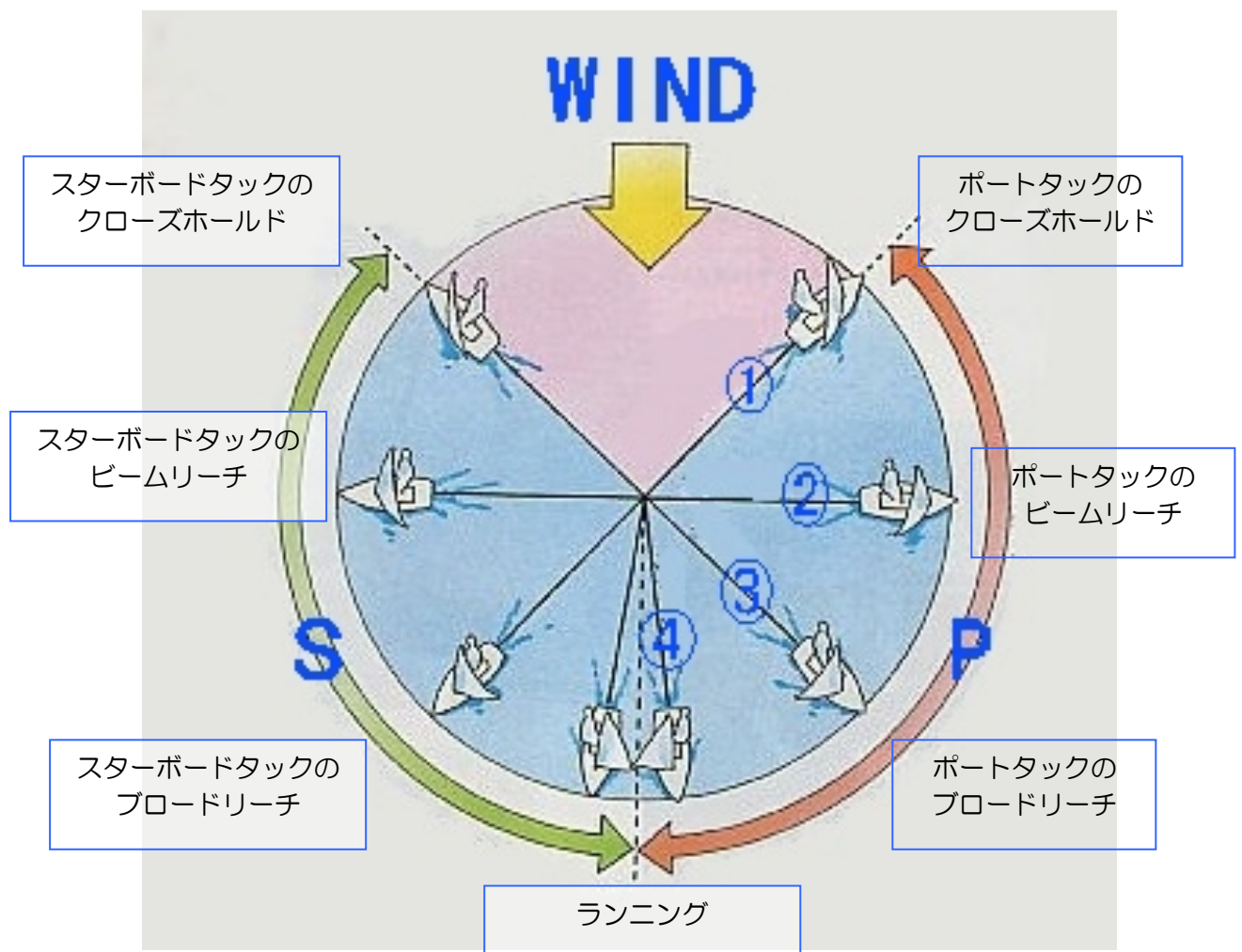


## セーリング(帆走)の種類

ヨットに乗って走ることをセイリング(帆走)<sup>はんそう</sup>といいます。

では、ヨットは自転車などと同じようにどの方向にでも走れるのでしょうか？

セイリングでは風が吹いてくる方向にはまっすぐには走れません。風の吹いてくる方向(風上)に対して左右45° づつはなれたところまでしか走れません。



※風下に走る場合ランニングは危険なためブロードリーチで走ります。

## ヨットはなぜ走るのだろう

前で勉強したブロードリーチのように、ヨットが風下(風が吹いていく方向)に走るのは自然のような気がします。それではなぜ風が吹いてくる方向、つまり風上に向かってヨットは走れるのでしょうか？

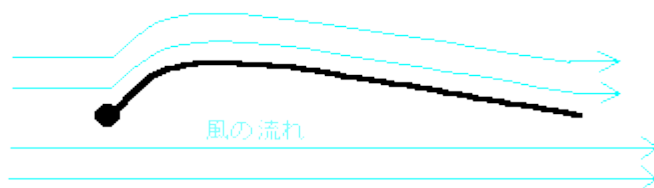
同じように、飛行機がなぜ空を飛べるかわかりますか？

みなさんは、飛行機の翼を見たことがありますか？

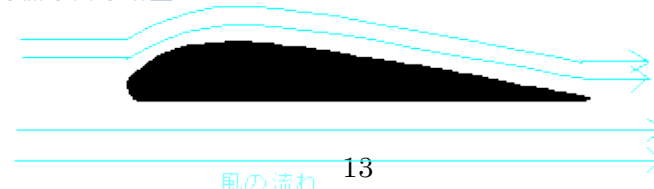
飛行機は翼の上と下を通る風の流に速さの違いが生まれます。その風のちがいによって翼の上の風圧と下の風圧に差が生じて翼が風圧の低いほうへ押される(吸い上げられる)ようになり、機体が飛ぶわけです。この力を揚力といひます。

ヨットのセールも飛行機の翼と同じ形をしています。ですからセイルに風があたれば飛行機と同じようにセイルに揚力が生まれるので風上に向かって走ることができるのです。

セイルの断面



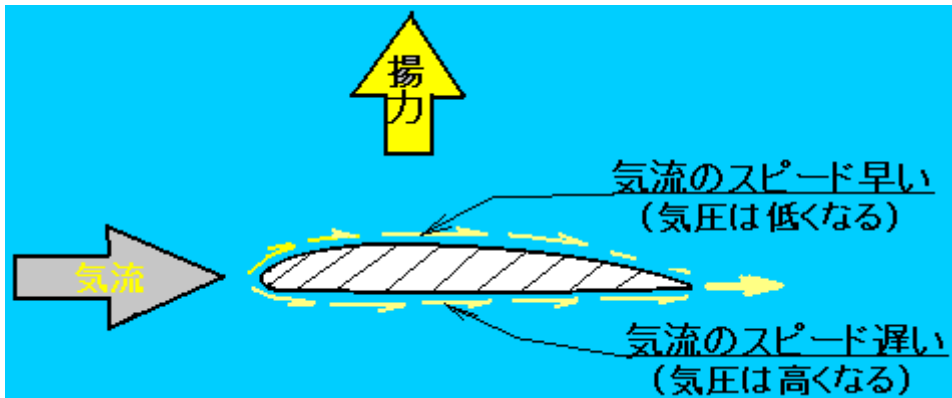
飛行機の翼の断面



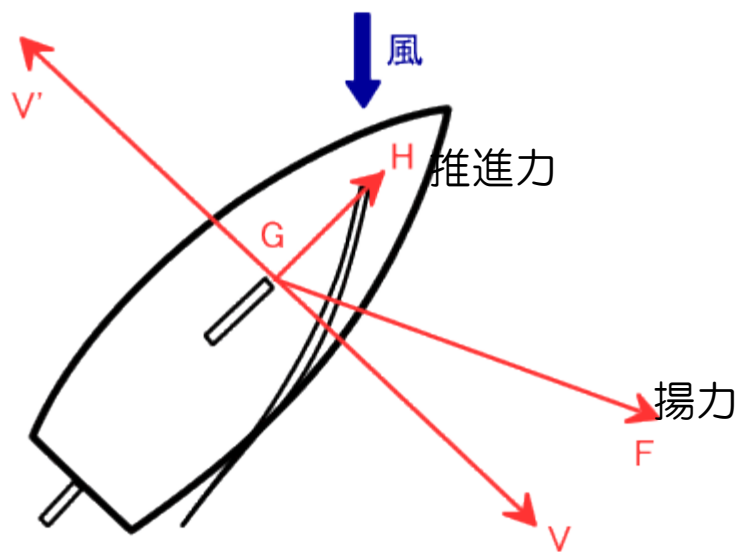


## ●翼と揚力

翼の上のほうのふくらんだ面を流れる空気は流れる速度が速く、圧力が下がり、揚力が生まれます。



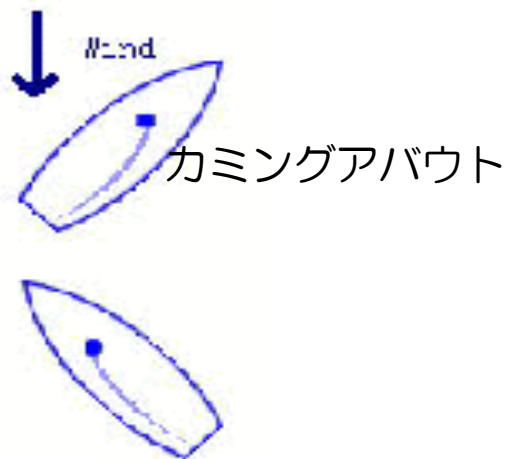
## ●セイルの揚力と推進力



## ヨットの方向転換

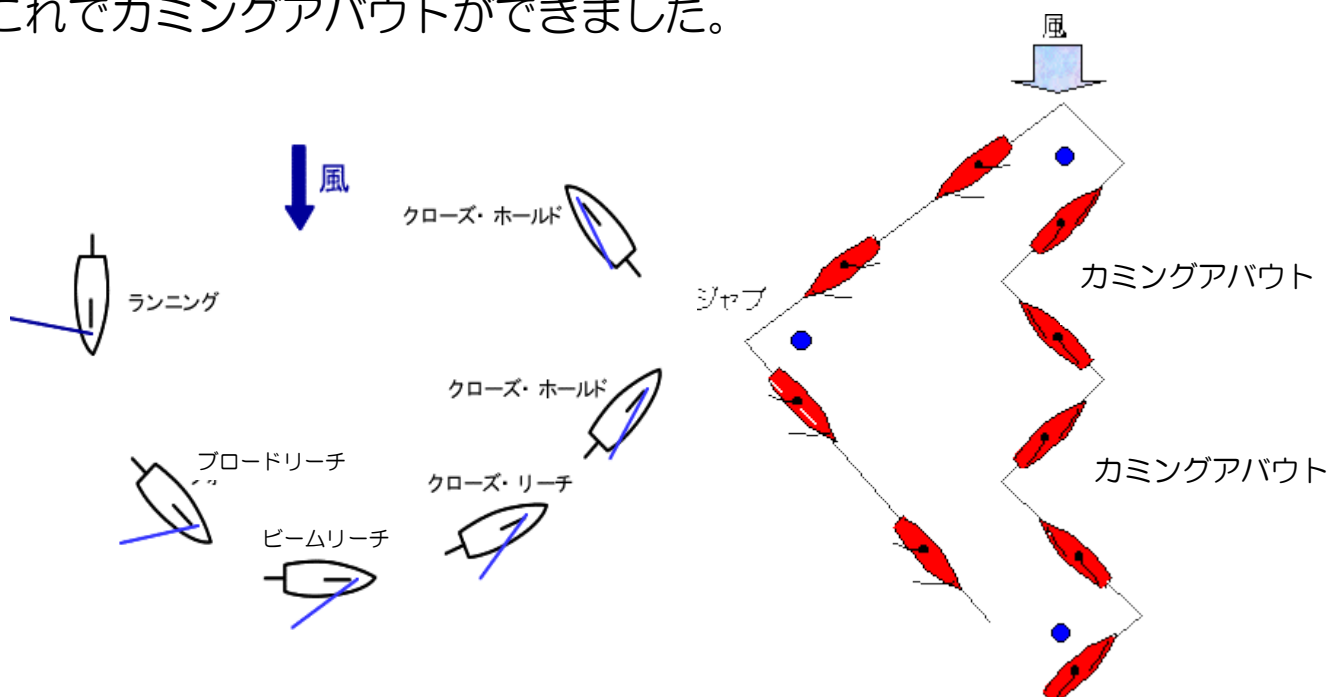
では、風に対して右から左、あるいは左から右に方向転換するにはどうしたらいいのでしょうか。

ヨットは風に対して45°以内は走れないことはわかりましたね。風上に向かってする方向転換をカミングアバウトといいます。



- ① 舵(ジョイスティック)をゆっくり行きたいほうに倒します。
- ② ブームが船内にかえってきて、反対側から風を受けるとさっきと反対側にブームが出ます。

これでカミングアバウトができました。

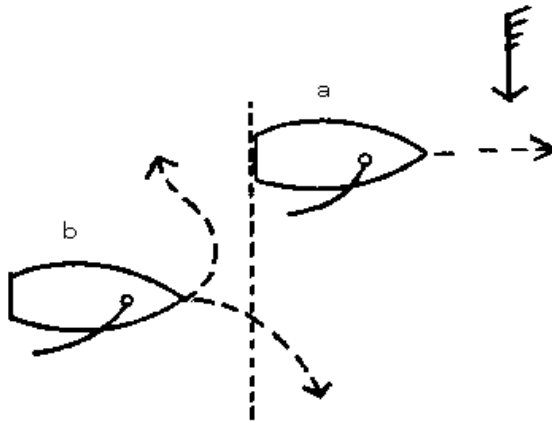


## 海のマナーと交通規則

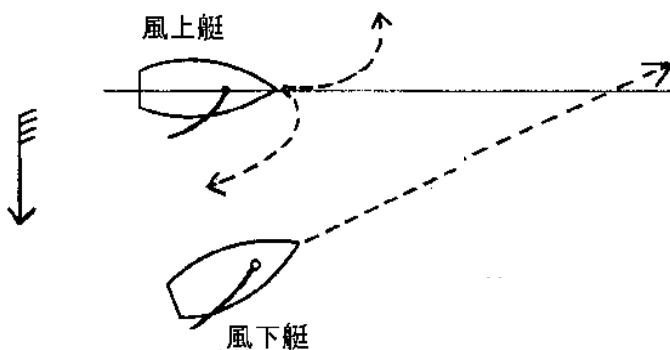
広い海の上にも交通規則があります。ヨットどうしの交通規則、ヨットとほかの船との交通規則を正しく守りましょう。

2席のヨットがそのまま近づくと、衝突する心配があるよなときの規則は・・・。

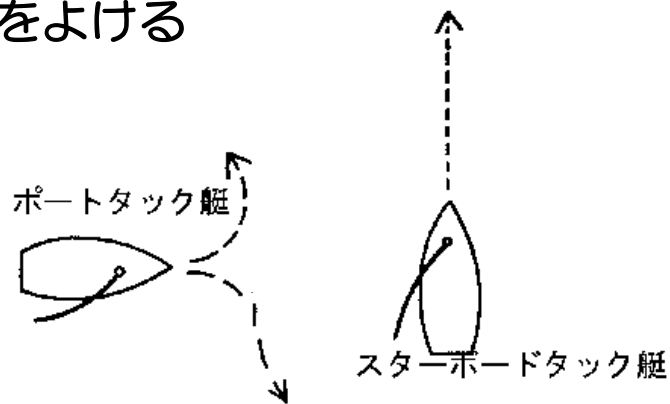
### ●追い越すヨットは追い越されるヨットの進路をよける



### ●風上のヨットは風下のヨットの進路をよける



## ●ポートタックのヨットはスターボードタックのヨットの進路をよける



ここまで、ポートタック、スターボードタックという言葉がでてきました。ヨットでは「右・左」というかわりに「ポート(左舷)」「スターボード(右舷)」と呼びます。ヨットに乗るとよく出てくる言葉ですから覚えておいてください。

## ●スターボードタック

ヨットが右舷から風を受けて走っている状態をスターボードタックといいます。

## ●ポートタック

ヨットが左舷から風を受けて走っている状態をポートタックといいます。

# 体験学習5つの心得

## 1. あいさつ

大きな声で、朝は「おはようございます」、帰るときは「さようなら」。

小さな声は海の上では聞こえないから、いつも大きな声でしゃべろう。

## 2. 時間を守る

ヨットレースは、時間を守ることが重要だから、時間を守ろう。

## 3. 自分のことは自分で

自分の乗るヨットは自分で用意しよう。

## 4. ごみを捨てない

海をきれいにしよう。

## 5. 道具を大切に

海の上で自分の身を守るために、道具は大切にしよう。